

目

次

市立病院事業会計

別表 1	業務実績表・その1	-----	26
〃 2	業務実績表・その2	-----	28
〃 3	費用構成節別比較表	-----	30
〃 4	損益計算書比較表	-----	32
〃 5	貸借対照表比較表	-----	34
〃 6	キャッシュ・フロー計算書比較表	-----	36
〃 7	経営財務分析表	-----	38

水道事業会計

別表 8	業務実績表・その1	-----	42
〃 9	業務実績表・その2	-----	44
〃 10	費用構成節別比較表	-----	46
〃 11	損益計算書比較表	-----	48
〃 12	貸借対照表比較表	-----	50
〃 13	キャッシュ・フロー計算書比較表	-----	52
〃 14	経営財務分析表	-----	54

別表 1

業 務 実 績 表 その 1

区 分 項 目		単 位	令和元年度	平成30年度	平成29年度	
病 床 数		床	161	161	161	
患 者 数	入 院	年 計	44,721	47,640	50,170	
		1 日 平 均	122.2	130.5	137.5	
	外 来	年 計	59,016	58,551	57,632	
		1 日 平 均	243.9	240.0	236.2	
	計	年 計	103,737	106,191	107,802	
		1 日 平 均	366.1	370.5	373.7	
病 床 利 用 率		%	75.9	81.1	85.4	
外 来 入 院 患 者 比 率		%	132.0	122.9	114.9	
年 度 末 職 員 数	医 師		人	15	16	15
	看 護 師		人	93	95	93
	技 術 職 員		人	36	34	34
	事 務 職 員		人	14	15	15
	給 食 職 員		人	2	2	2
	そ の 他 職 員		人	0	0	0
	計		人	160	162	159
患 者 1 人 1 日 当 り 費 用		円	26,369	26,913	25,576	
患 者 1 人 1 日 当 り 収 入		円	23,802	22,519	22,942	

市立病院事業

令和元年度対平成30年度		平成29年度対比すう勢比率 (%)		備 考
比較増減	増減率 (%)	令和元年度	平成30年度	
0	0.0	100.0	100.0	
-2,919	-6.1	89.1	95.0	
-8.3	-6.4	88.9	94.9	
465	0.8	102.4	101.6	
3.9	1.6	103.3	101.6	
-2,454	-2.3	96.2	98.5	
-4.4	-1.2	98.0	99.1	
-5.2	-6.4	88.9	95.0	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
9.1	7.4	114.9	107.0	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$
-1	-6.3	100.0	106.7	
-2	-2.1	100.0	102.2	准看護師を含む
2	5.9	105.9	100.0	薬剤師 放射線技師 検査技師 マッサージ師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
-1	-6.7	93.3	100.0	医療福祉士を含む
0	0.0	100.0	100.0	
0	-	-	-	
-2	-1.2	100.6	101.9	
-544	-2.0	103.1	105.2	$\frac{\text{医業費用}}{\text{年延入院外来患者数}}$
1,283	5.7	103.7	98.2	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年延入院外来患者数}}$

別表 2

業 務 実 績 表 その 2

区 分 項 目	令和元年度	平成30年度	比較増減	平成30年度年鑑指標		算 式
				全 国	比率100 未 満	
病 床 利 用 率 (%)	75.9	81.1	-5.2	75.8	74.9	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延総病床数}} \times 100$
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	132.0	122.9	9.1	173.4	174.5	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$
職 員 1 人 1 日 当 り 患 者 数 (人)	1.5	1.5	0.0	-	-	$\frac{\text{年延総患者数}}{\text{年延職員数}}$
入 院 (人)	0.7	0.7	0.0	-	-	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延職員数}}$
外 来 (人)	0.9	0.8	0.1	-	-	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延職員数}}$
患 者 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入 (円)	20,565	19,419	1,146	25,041	23,867	$\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延入院外来患者数}}$
入 院 (円)	33,591	30,144	3,447	46,444	44,435	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$
外 来 (円)	10,694	10,694	0	12,696	12,084	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$
職 員 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入 (円)	31,765	29,834	1,931	-	-	$\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延職員数}}$
患 者 1 人 1 日 当 り 薬 品 費 (円)	1,800	1,657	143	3,316	3,046	$\frac{\text{薬品費}}{\text{年延入院外来患者数}}$
入 院 患 者 1 人 1 日 当 り 給 食 材 料 費 (円)	675	657	18	265	253	$\frac{\text{患者用給食材料費}}{\text{年延入院患者数}}$
投 薬 薬 品 使 用 効 率 (%)	101.0	100.7	0.3	102.3	102.0	$\frac{\text{薬品収入(投薬分)}}{\text{投薬薬品費}} \times 100$
注 射 薬 品 使 用 効 率 (%)	113.1	126.1	-13.0	90.2	89.4	$\frac{\text{薬品収入(注射分)}}{\text{注射薬品費}} \times 100$
投 薬 注 射 収 入 (%)	9.7	10.2	-0.5	12.3	11.8	$\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
検 査 収 入 (%)	10.8	11.5	-0.7	8.7	8.8	$\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
X 線 収 入 (%)	4.8	5.4	-0.6	5.1	5.1	$\frac{\text{X線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
医 療 材 料 費 (%)	12.6	12.8	-0.2	23.1	22.5	$\frac{\text{医療材料費}}{\text{医療業収益}} \times 100$
薬 品 費 (%)	7.6	7.4	0.2	12.4	11.9	$\frac{\text{薬品費}}{\text{医療業収益}} \times 100$

市立病院事業

区 分 項 目	令和元年度	平成30年度	比較増減	平成30年度年鑑指標		算 式	
				全 国	比率100 未 満		
その他材料費 (%)	5.0	5.4	-0.4	10.7	10.6	$\frac{\text{その他材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	
職員給与費 (%)	55.2	61.7	-6.5	54.1	55.5	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	
患者100人当り検査件数 (件)	498.2	485.7	12.5	500.8	476.9	$\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年延総患者数}} \times 100$	
患者100人当りX線件数 (件)	48.4	48.4	0.0	24.4	23.6	$\frac{\text{年間X線件数}}{\text{年延総患者数}} \times 100$	
検査技師1人当り検査件数 (件)	86,134	85,955	179	75,049	72,167	$\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年度末検査技師数}}$	
検査技師1人当り検査収入 (千円)	38,241	39,465	-1,224	32,534	31,720	$\frac{\text{検査収入}}{\text{年度末検査技師数}}$	
X線技師1人当りX線件数 (件)	8,373	8,566	-193	4,642	4,589	$\frac{\text{年間X線件数}}{\text{年度末X線技師数}}$	
X線技師1人当りX線収入 (千円)	17,052	18,560	-1,508	24,533	23,806	$\frac{\text{X線収入}}{\text{年度末X線技師数}}$	
入院収益に対する室料差額収益割合 (%)	0.4	0.5	-0.1	1.5	1.5	$\frac{\text{室料差額収益}}{\text{入院収益}} \times 100$	
総収益に対する室料差額収益割合 (%)	0.2	0.2	0.0	0.8	0.8	$\frac{\text{室料差額収益}}{\text{総収益}} \times 100$	
総病床数に対する室料差額対象病床数 (%)	3.7	4.3	-0.6	16.9	16.5	$\frac{\text{室料差額対象病床数}}{\text{総病床数}} \times 100$	
病床100床当り職員数 (人)	140.6	147.0	-6.4	140.0	136.8	$\frac{\text{年度末職員数}}{\text{年度末病床数}} \times 100$	
企業債元金償還金に対する減価償却費の割合 (%)	202.8	142.9	59.9	133.2	-	$\frac{\text{企業債元金償還金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	
料金収入に対する比率	企業債元金償還金 (%)	4.8	4.8	0.0	8.8	-	$\frac{\text{企業債元金償還金}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
	企業債利息 (%)	0.1	0.1	0.0	1.5	-	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
	企業債元利償還金 (%)	4.9	4.9	0.0	10.2	-	$\frac{\text{企業債元利償還金}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
	職員給与費 (%)	63.9	71.6	-7.7	57.8	-	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{入院外来収益}} \times 100$

別表 3

費用構成節別比較表

区 分 科 目	令和元年度	平成30年度	対前年度比較	
	金 額	金 額	増 減 額	増 減 率
医 業 費 用	2,735,436,547	2,857,952,373	-122,515,826	-4.3
給 料	640,451,055	634,000,716	6,450,339	1.0
手 当 等	460,198,323	519,081,088	-58,882,765	-11.3
賃 金	109,545,554	121,842,172	-12,296,618	-10.1
報 酬	196,218,689	185,702,692	10,515,997	5.7
法 定 福 利 費	228,206,260	238,065,419	-9,859,159	-4.1
退 職 負 担 金	152,377,116	159,534,895	-7,157,779	-4.5
賞与引当金繰入額	38,000,000	77,000,000	-39,000,000	-50.6
法 定 福 利 費 引 当 金 繰 入 額	6,000,000	18,000,000	-12,000,000	-66.7
薬 品 費	216,885,532	215,703,305	1,182,227	0.5
診 療 材 料 費	89,841,604	86,845,343	2,996,261	3.5
給 食 材 料 費	30,203,841	31,282,914	-1,079,073	-3.4
医 療 消 耗 備 品 費	3,207,775	2,890,509	317,266	11.0
厚 生 福 利 費	992,180	972,247	19,933	2.1
報 償 費	111,370	170,238	-58,868	-34.6
旅 費 交 通 費	205,264	276,366	-71,102	-25.7
職 員 被 服 費	439,050	332,670	106,380	32.0
消 耗 品 費	11,314,552	11,054,182	260,370	2.4
消 耗 備 品 費	3,091,651	1,211,547	1,880,104	155.2
光 熱 水 費	52,313,214	53,580,780	-1,267,566	-2.4
燃 料 費	725,544	934,763	-209,219	-22.4
会 議 費	0	0	0	-
食 糧 費	270,000	191,064	78,936	41.3
印 刷 製 本 費	1,291,227	1,354,508	-63,281	-4.7
修 繕 費	10,878,519	11,841,892	-963,373	-8.1
保 險 料	4,342,386	4,283,335	59,051	1.4
賃 借 料	20,726,262	29,145,063	-8,418,801	-28.9
手 数 料	3,009,702	4,241,515	-1,231,813	-29.0
広 告 料	60,000	100,000	-40,000	-40.0
通 信 運 搬 費	3,835,030	3,930,801	-95,771	-2.4
委 託 料	298,879,187	277,185,981	21,693,206	7.8
諸 会 費	3,192,125	3,106,916	85,209	2.7

市立病院事業

(単位:円、%)

区 分 科 目	令和元年度	平成30年度	対前年度比較	
	金 額	金 額	増 減 額	増 減 率
交 際 費	214,937	132,780	82,157	61.9
工 事 費	190,000	631,500	-441,500	-69.9
雑 費	2,034,998	1,993,891	41,107	2.1
補償・補填 及び賠償金	0	0	0	-
貸倒引当金繰入額	4,000,000	20,000,000	-16,000,000	-80.0
建物減価償却費	55,596,168	55,766,864	-170,696	-0.3
構築物減価償却費	2,226,780	1,143,575	1,083,205	94.7
器械備品減価償却費	75,113,731	72,734,324	2,379,407	3.3
車輛運搬具 減価償却費	121,457	306,937	-185,480	-60.4
リース資産 減価償却費	2,485,604	2,742,134	-256,530	-9.4
棚卸資産減耗費	1,210,651	3,546,825	-2,336,174	-65.9
固定資産除却費	0	0	0	-
研究材料費	0	0	0	-
謝 金	0	0	0	-
図 書 費	2,525,369	2,361,405	163,964	6.9
旅 費	1,516,649	1,265,104	251,545	19.9
研 究 雑 費	1,387,191	1,464,113	-76,922	-5.3
医 業 外 費 用	67,858,921	60,818,575	7,040,346	11.6
企業債利息	1,306,366	1,437,150	-130,784	-9.1
一時借入金利息	16,303	23,256	-6,953	-29.9
長期借入金利息	6,802	9,901	-3,099	-31.3
リース債務利息	25,769	64,642	-38,873	-60.1
患者外給食材料費	1,020,425	947,717	72,708	7.7
看護師確保費	0	0	0	-
不用品売却原価	0	0	0	-
その他雑損失	65,483,256	58,335,909	7,147,347	12.3
特 別 損 失	7,100,464	2,204,053	4,896,411	222.2
過年度損益修正損	7,100,464	2,204,053	4,896,411	222.2
合 計	2,810,395,932	2,920,975,001	-110,579,069	-3.8

別表 4

損益計算書比較表

		借		方			
区 分 科 目	令和元年度		平成30年度		対前年度比較		
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率	
医業費用	2,735,436,547	97.3	2,857,952,373	97.8	-122,515,826	-4.3	
給 与 費	1,830,996,997	65.2	1,953,226,982	66.9	-122,229,985	-6.3	
材 料 費	340,138,752	12.1	336,722,071	11.5	3,416,681	1.0	
経 費	422,117,198	15.0	426,672,039	14.6	-4,554,841	-1.1	
減価償却費	135,543,740	4.8	132,693,834	4.5	2,849,906	2.1	
資産減耗費	1,210,651	0.0	3,546,825	0.1	-2,336,174	-65.9	
研究研修費	5,429,209	0.2	5,090,622	0.2	338,587	6.7	
医業外費用	67,858,921	2.4	60,818,575	2.1	7,040,346	11.6	
支払利息及び 企業債取扱諸費	1,355,240	0.0	1,534,949	0.1	-179,709	-11.7	
患者外給食材料費	1,020,425	0.0	947,717	0.0	72,708	7.7	
看護師確保費	0	-	0	-	0	-	
雑 損 失	65,483,256	2.3	58,335,909	2.0	7,147,347	12.3	
特別損失	7,100,464	0.3	2,204,053	0.1	4,896,411	222.2	
過年度損益修正損	7,100,464	0.3	2,204,053	0.1	4,896,411	222.2	
小 計	2,810,395,932	100.0	2,920,975,001	100.0	-110,579,069	-3.8	
当年度純利益	1,086,164	-	1,105,738	-	-19,574	-1.8	
合 計	2,811,482,096	-	2,922,080,739	-	-110,598,643	-3.8	

市立病院事業

(単位：円、%)

区 分 科 目	貸		方		対前年度比較	
	令和元年度		平成30年度		増減額	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
医業収益	2,469,145,295	87.8	2,391,306,769	81.8	77,838,526	3.3
入院収益	1,502,240,420	53.4	1,436,054,366	49.1	66,186,054	4.6
外来収益	631,127,071	22.4	626,119,422	21.4	5,007,649	0.8
その他医業収益	335,777,804	11.9	329,132,981	11.3	6,644,823	2.0
医業外収益	341,950,994	12.2	530,683,817	18.2	-188,732,823	-35.6
他会計負担金	132,115,000	4.7	336,099,000	11.5	-203,984,000	-60.7
他会計補助金	102,708,000	3.7	109,392,000	3.7	-6,684,000	-6.1
患者外給食収益	666,824	0.0	615,016	0.0	51,808	8.4
その他医業外収益	15,656,959	0.6	16,741,510	0.6	-1,084,551	-6.5
県補助金	5,978,000	0.2	4,834,000	0.2	1,144,000	23.7
長期前受金戻入	84,826,211	3.0	63,002,291	2.2	21,823,920	34.6
特別利益	385,807	0.0	90,153	0.0	295,654	327.9
過年度損益修正益	385,807	0.0	90,153	0.0	295,654	327.9
他会計補助金	0	-	0	-	0	-
小 計	2,811,482,096	100.0	2,922,080,739	100.0	-110,598,643	-3.8
当年度純損失	-	-	-	-	-	-
合 計	2,811,482,096	-	2,922,080,739	-	-110,598,643	-3.8

別表 5

貸借対照表比較表

		借		方			
区 分 科 目	令和元年度		平成30年度		対前年度比較		
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率	
固 定 資 産	1,235,821,167	74.9	1,336,400,295	76.0	-100,579,128	-7.5	
有形固定資産	1,235,675,567	74.9	1,336,254,695	76.0	-100,579,128	-7.5	
無形固定資産	145,600	0.0	145,600	0.0	0	0.0	
投 資	0	-	0	-	0	-	
流 動 資 産	414,044,703	25.1	422,100,215	24.0	-8,055,512	-1.9	
現金及び預金	18,592,504	1.1	22,162,432	1.3	-3,569,928	-16.1	
未 収 金	385,243,513	23.3	387,468,504	22.0	-2,224,991	-0.6	
貸倒引当金	-139,952	0.0	-68,098	0.0	-71,854	105.5	
貯 蔵 品	10,348,638	0.6	12,537,377	0.7	-2,188,739	-17.5	
前 払 費 用	0	-	0	-	0	-	
資 産 合 計	1,649,865,870	100.0	1,758,500,510	100.0	-108,634,640	-6.2	

市立病院事業

(単位：円、%)

貸 方						
区 分 科 目	令和元年度		平成30年度		対前年度比較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率
固 定 負 債	347,560,110	21.1	389,709,034	22.2	-42,148,924	-10.8
企業債	347,560,110	21.1	382,277,539	21.7	-34,717,429	-9.1
他会計借入金	0	-	6,500,000	0.4	-6,500,000	皆減
リース債務	0	-	931,495	0.1	-931,495	皆減
流 動 負 債	469,982,005	28.5	510,640,605	29.0	-40,658,600	-8.0
一時借入金	170,000,000	10.3	120,000,000	6.8	50,000,000	41.7
企業債	71,517,429	4.3	102,863,036	5.8	-31,345,607	-30.5
他会計借入金	6,500,000	0.4	6,500,000	0.4	0	0.0
リース債務	931,495	0.1	3,474,763	0.2	-2,543,268	-73.2
未払金	160,360,780	9.7	164,081,055	9.3	-3,720,275	-2.3
引当金	44,000,000	2.7	95,000,000	5.4	-51,000,000	-53.7
その他流動負債	16,672,301	1.0	18,721,751	1.1	-2,049,450	-10.9
繰 延 収 益	651,286,637	39.5	678,199,917	38.6	-26,913,280	-4.0
長期前受金	958,439,301	58.1	900,526,370	51.2	57,912,931	6.4
収益化累計額	-307,152,664	-18.6	-222,326,453	-12.6	-84,826,211	38.2
(負 債 合 計)	1,468,828,752	89.0	1,578,549,556	89.8	-109,720,804	-7.0
資 本 金	3,593,642,638	217.8	3,593,642,638	204.4	0	0.0
剰 余 金	-3,412,605,520	-206.8	-3,413,691,684	-194.1	1,086,164	0.0
資本剰余金	11,902,729	0.7	11,902,729	0.7	0	0.0
利益剰余金	-3,424,508,249	-207.6	-3,425,594,413	-194.8	1,086,164	0.0
(資 本 合 計)	181,037,118	11.0	179,950,954	10.2	1,086,164	0.6
負債資本合計	1,649,865,870	100.0	1,758,500,510	100.0	-108,634,640	-6.2

別表 6

キャッシュ・フロー計算書比較表

区 分	令和元年度	平成30年度
1 業務活動によるキャッシュ・フロー		
当年度純利益	1,086,164	1,105,738
減価償却費	135,543,740	132,693,834
固定資産除却費	0	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△ 39,000,000	63,000,000
法定福利引当金の増減額 (△は減少)	△ 12,000,000	11,000,000
長期前受金戻入額	△ 84,826,211	△ 63,002,291
支払利息	1,355,240	1,534,949
未収金の増減額 (△は増加)	2,224,991	30,888,724
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	71,854	21,874
未払金の増減額 (△は減少)	△ 3,720,275	△ 22,527,398
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,188,739	△ 1,625,066
その他流動資産の増減額 (△は増加)	0	0
その他流動負債の増減額 (△は減少)	△ 2,049,450	30,301
小 計	874,792	153,120,665
利息の支払額 (減額)	△ 1,355,240	△ 1,534,949
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 480,448	151,585,716
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 34,837,100	△ 38,237,200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 34,837,100	△ 38,237,200
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
一時借入による収入	410,000,000	420,000,000
一時借入金の返済による支出	△ 360,000,000	△ 510,000,000
建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	36,800,000	41,200,000
建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 102,863,036	△ 99,580,265
その他の企業債の償還による支出	0	0
リース債務の返済による支出	△ 3,474,763	△ 4,776,530
企業債償還金に充てるための他会計借入金の返済による支出	△ 6,500,000	△ 6,500,000
寄附金	0	0
消費税返還金	△ 2,581	△ 33,968
他会計からの出資による収入	57,788,000	56,139,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,747,620	△ 103,551,763
資金増加額 (1+2+3)	△ 3,569,928	9,796,753
資金期首残高	22,162,432	12,365,679
資金期末残高	18,592,504	22,162,432

市立病院事業

(単位：円)

対前年度比較	説 明
	通常の業務活動の実施による資金の増減を表す
△ 19,574	
2,849,906	現金支出を伴わない費用で損益計算書から費用計上額を記入
0	現金支出を伴わない費用で損益計算書から費用計上額を記入
△ 102,000,000	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
△ 23,000,000	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
△ 21,823,920	現金を伴わない収入で損益計算書の金額を（△）記入
△ 179,709	医業外費用で支払利息の金額（＋）を記入
△ 28,663,733	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（△）、減少の場合は（＋）を記入）
49,980	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
18,807,123	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
3,813,805	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（△）、減少の場合は（＋）を記入）
0	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（△）、減少の場合は（＋）を記入）
△ 2,079,751	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
△ 152,245,873	
179,709	医業外費用で支払利息の金額を控除（△）記入
△ 152,066,164	
	将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動による資金の増減を表す
3,400,100	資産取得金額の金額（△）を記入
3,400,100	
	資金調達による資金の増減を表す
△ 10,000,000	一時借入金の年間での借入額を記入
150,000,000	一時借入金の年間での返済額（△）を記入
△ 4,400,000	資本的収入の企業債借入額を記入
△ 3,282,771	建設改良等の財源に充てるための企業債元金償還額（△）を記入
0	その他の企業債元金償還額（△）を記入
1,301,767	年間でのリース返済額（△）を記入
0	資本的支出の長期借入金償還額（△）を記入
0	資本的収入の寄附金を記入
31,387	消費税返還金額（△）を記入
1,649,000	資本的収入の他会計出資金・補助金を記入
135,299,383	
△ 13,366,681	
9,796,753	
△ 3,569,928	

別表 7

經 營 財 務 分 析 表

	分 析 項 目	単 位	比 率			算 式
			令和元年度	平成30年度	平成30年度 年鑑指標	
構 成 比 率	固定資産構成比率	%	74.90	76.00	75.07	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$
	流動資産構成比率	%	25.10	24.00	24.93	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}} \times 100$
	固定負債構成比率	%	21.07	22.16	55.21	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}} \times 100$
	流動負債構成比率	%	28.49	29.04	13.96	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資産}} \times 100$
	自己資本構成比率	%	50.45	48.80	30.83	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資産}} \times 100$
財 務 比 率	流動資産対固定資産比率	%	33.50	31.58	33.20	$\frac{\text{流動資産}}{\text{固定資産} + \text{繰延資産}} \times 100$
	固定比率	%	148.48	155.73	243.53	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$
	固定資産対長期資本比率	%	104.74	107.10	87.25	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$
	流動比率	%	88.10	82.66	178.49	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
	当座比率	%	85.90	80.21	174.65	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$
	現金預金比率	%	3.96	4.34	104.68	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
	負債比率	%	176.47	183.95	255.87	$\frac{\text{負債}}{\text{自己資本}} \times 100$
	固定負債比率	%	41.76	45.41	179.10	$\frac{\text{固定負債}}{\text{自己資本}} \times 100$
	流動負債比率	%	56.47	59.50	45.30	$\frac{\text{流動負債}}{\text{自己資本}} \times 100$
回 転 率	総資本回転率	回	1.45	1.32	0.58	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
	自己資本回転率	回	2.92	2.78	1.87	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均自己資本}}$
	固定資産回転率	回	1.92	1.73	0.77	$\frac{\text{医業収益}}{\text{平均固定資産} - \text{平均建設仮勘定}}$
	流動資産回転率	回	5.91	5.54	2.31	$\frac{\text{医業収益}}{\text{平均流動資産}}$
	未収金回転率	回	6.51	6.01	5.82	$\frac{\text{医業未収金}}{\text{平均医業未収金}}$
	貯蔵品回転率	回	19.06	18.70	-	$\frac{\text{期首貯蔵品} + \text{当年度増加額} - \text{期末貯蔵品}}{\text{平均貯蔵品}}$

市立病院事業

備	考
	<p>総資産に対する固定資産・流動資産の占める割合であり、固定資産構成比率が大であれば、資本が固定化の傾向にあり、流動資産構成比率が大であれば流動性は良好である。なお、両者の比率の合計は100となる。</p>
	<p>総資本とこれを構成する固定負債・流動負債・自己資本の関係を示すもので、自己資本構成比率が大であるほど経営の安全性は大きいものといえる。</p>
	<p>固定資産と流動資産の関係を示すもので、数値が小さいほど資本が固定化している。</p>
	<p>固定資産が自己資本によってまかなわれるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましいとされている。</p>
	<p>固定資産の調達自己資本と固定負債の範囲内で行われるべきであるとの立場から、100%以下であることが望ましく、超過した場合は過大投資が行われたものといえる。</p>
	<p>1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性の確保には、流動資産が流動負債の2倍以上であることが望まれるので、理想比率は200%以上である。</p>
	<p>流動資産のうち現金預金及び容易に現金化する未収金などの当座資産と流動負債とを対比させたもので100%以上が理想比率とされている。</p>
	<p>流動負債に対する現金預金の割合を示す比率で、20%以上が理想値とされている。</p>
	<p>負債を自己資本より超過させないことが健全経営の第一義であるので、100%以下を理想とする。</p>
	<p>負債比率が100%を超える場合であっても負債の良否を判断する必要があり、そのため流動負債比率は75%以下を標準比率としている。</p>
	<p>企業に投下運用されている資本の効率を測定するものである。</p>
	<p>自己資本の働きを総資本から切り離して観察したものである。</p>
	<p>医業収益と固定資産（設備資産）に投下された資本との関係で、設備利用の適否を見るためのものである。</p>
	<p>現金預金回転率・未収金回転率・貯蔵品回転率等を包括するものであり、これらの比率が高くなれば、それに応じて高くなるものである。</p>
	<p>医業収益と医業未収金との関係で、未収金として固定される金額の適否を見るためのもので、比率が高ければそれだけ未収金の回転速度が速いことを意味する。</p>
	<p>貯蔵品を費消しこれを補充する速度を明らかにするもので、この比率が高いほど貯蔵品に対する投下資本が少なくてすむので、貯蔵品管理の巧拙を反映する。</p>

	分析項目	単位	比率			算式
			令和元年度	平成30年度	平成30年度 年鑑指標	
収 益 率	総収支比率	%	100.04	100.04	97.98	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
	経常収支比率	%	100.28	100.11	98.05	$\frac{\text{経常収益 (医業収益+医業外収益)}}{\text{経常費用 (医業費用+医業外費用)}} \times 100$
	医業収支比率	%	90.27	83.67	91.66	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
	総資本利益率	%	0.46	0.18	0.60	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$
	医業収益利益率	%	0.32	0.13	1.04	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$
そ の 他	減価償却率	%	10.02	9.14	7.40	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産+当年度減価償却費}} \times 100$
	利子負担率	%	0.23	0.25	1.52	$\frac{\text{支払利息}}{\text{企業債等+一時借入金+リース債務}} \times 100$
	企業債償還元金対償還財源比率	%	175.78	136.58	-	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{減価償却費+当年度経常利益-長期前受金戻入}} \times 100$
	不良債務比率	%	-0.89	-0.87	1.36	$\frac{\text{不良債務額}}{\text{医業収益}} \times 100$
	累積欠損金比率	%	138.69	143.25	57.63	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{医業収益}} \times 100$
	職員1人当り医業収益	千円	15,432	14,761	15,633	$\frac{\text{医業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}} \div 1000$
	職員1人当り医業費用	千円	17,096	17,642	17,056	$\frac{\text{医業費用}}{\text{損益勘定所属職員数}} \div 1000$
職員1人当り有形固定資産	千円	7,723	8,248	19,545	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{職員数}} \div 1000$	

(注1) 年鑑指標 = 「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成30年度全国平均値である。

(注2) 各算式に用いた用語は、次のとおりである。

総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延資産 総資本 = 資本 + 負債

自己資本 = 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益 年平均 = (期首 + 期末) × 1/2

支払利息 = 支払利息 + 企業債手数料及び取扱諸費

企業債等 = 建設改良の財源に充てるための企業債・長期借入金 + その他の企業債・長期借入金

貯蔵品当年度増加額 = 当年度購入額 + 当年度発生額

総資本利益率 = 算式の分子、当年度純利益を当年度経常利益としている。

総資本利益率 = 算式 (当年度純利益 / 総資本) を (当年度経常利益 / 年平均総資本) と読み替えている。

不良債務額 = (流動負債 - 建設改良費等の財源に充てた企業債・長期借入金) - (流動資産 - 翌年度繰越財源)

市立病院事業

備	考
総収益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総体的な関連を示すものである。	
経常収益（医業収益＋医業外収益）と、経常費用（医業費用＋医業外費用）を対比したものであり、経常的な収益と費用の関連を示すものである。	
業務活動によってもたらされた医業収益と、それに要した医業費用とを対比して業務活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断されるものである。	
投下された資本の総資本と、それによってもたらされた利益とを比較したものである。	
医業収益に占める経常利益の割合を示すものである。	
減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって、いかなる減価償却政策をとっているかを明らかにするもので、固定資産に投下された資本の回収状況を見るためのものである。	
借入金に対し、それらの支払利息等の負担比率を示すもので、この比率が低いほど低廉な資金を使用していることになる。	
企業債元金償還金と、その主要償還財源である減価償却費及び当年度経常利益の合計額から長期前受金戻入を控除した額を比較したもので、この比率が低いほど償還能力は高い。	
企業経営健全性確保のためには、支払不能の債務（不良債務）のないことが不可欠でこの比率が高いことはそれだけ企業の経営が悪化していることを示している。	
累積された赤字額である累積欠損金と1年間の営業収益とを比較したもので、この比率が高いということは不良債務比率と合わせ、企業経営が悪化しているということである。	

別表 8

業 務 実 績 表 その 1

項 目	区 分	単 位	令和元年度	平成30年度	平成29年度
行 政 区 域 内 人 口		(人)	53,795	54,192	54,619
給 水 区 域 内 人 口		(人)	59,902	60,335	60,822
現 在 給 水 人 口		(人)	59,902	60,335	60,822
普 及 率		(%)	100.0	100.0	100.0
給 水 戸 数		(戸)	26,212	26,294	26,250
配 水 量		(m ³)	7,257,260	7,435,638	7,532,085
有 収 水 量		(m ³)	6,257,600	6,405,699	6,486,718
有 収 率		(%)	86.23	86.15	86.12
導 送 配 水 管 延 長		(m)	350,869	349,130	348,404
職 員 数		(人)	31	32	31
1 立方メートル当り 費 用		(円)	206.78	212.59	218.22
1 立方メートル当り 収 益		(円)	247.44	247.95	241.35
1 立方メートル当り 給水収益		(円)	218.55	218.11	211.92

水 道 事 業

令和元年度対平成30年度		平成29年度対比すう勢比率 (%)		備 考
比較増減	増減率 (%)	令和元年度	平成30年度	
-397	-0.7	98.5	99.2	年度末現在
-433	-0.7	98.5	99.2	年度末現在
-433	-0.7	98.5	99.2	年度末現在
0.0	0.0	100.0	100.0	$\frac{\text{現在給水人口}}{\text{給水区域内人口}} \times 100$
-82	-0.3	99.9	100.2	年度末現在
-178,378	-2.4	96.4	98.7	年間総量
-148,099	-2.3	96.5	98.8	年間総量
0.08	0.1	100.1	100.0	$\frac{\text{有収水量}}{\text{配水量}} \times 100$
1,739	0.5	100.7	100.2	年度末現在
-1	-3.1	100.0	103.2	年度末現在
-5.81	-2.7	94.8	97.4	$\frac{\text{総費用量}}{\text{有収水量}}$
-0.51	-0.2	102.5	102.7	$\frac{\text{総収益量}}{\text{有収水量}}$
0.44	0.2	103.1	102.9	$\frac{\text{給水収益量}}{\text{有収水量}}$

別表 9

業 務 実 績 表 その 2

区 分 項 目	令和元年度	平成30年度	比 較 増 減	平成30年度年鑑指標		算 式
				全 国	給水人口 5～10万	
負 荷 率 (%)	87.2	88.3	-1.1	88.1	86.0	$\frac{1 \text{ 日 平 均 配 水 量}}{1 \text{ 日 最 大 配 水 量}} \times 100$
施 設 利 用 率 (%)	59.2	60.8	-1.6	60.3	59.5	$\frac{1 \text{ 日 平 均 配 水 量}}{1 \text{ 日 配 水 能 力}} \times 100$
最 大 稼 働 率 (%)	67.9	68.9	-1.0	68.4	69.2	$\frac{1 \text{ 日 最 大 配 水 量}}{1 \text{ 日 配 水 能 力}} \times 100$
有 収 率 (%)	86.2	86.1	0.1	89.9	87.4	$\frac{\text{年 間 総 有 収 水 量}}{\text{年 間 総 配 水 量}} \times 100$
配 水 効 率 (m ³ /m)	20.68	21.30	-0.62	20.57	15.40	$\frac{\text{年 間 総 配 水 量}}{\text{導 送 配 水 管 延 長}}$
固 定 資 産 効 率 (m ³ /万円)	6.85	7.19	-0.34	6.87	6.58	$\frac{\text{年 間 総 配 水 量}}{\text{有 形 固 定 資 産} \div 1 \text{ 万}}$
供 給 単 価 (円/m ³)	218.55	218.11	0.44	173.64	173.39	$\frac{\text{給 水 収 益 量}}{\text{年 間 総 有 収 水 量}}$
給 水 原 価 (円/m ³)	187.26	186.33	0.93	167.11	167.46	$\frac{\text{経 常 費 用} - (\text{受 託 工 事 費} + \text{不 用 品 売 却 原 価} + \text{長 期 前 受 金 戻 入})}{\text{年 間 総 有 収 水 量}}$

水 道 事 業

項 目	区 分	令和元年度	平成30年度	比 較 増 減	平成30年度年鑑指標		算 式
					全 国	給水人口 5～10万	
職 員 1 人 当 り 給 水 人 口 (人)		2,139	2,081	58	3,620	4,175	$\frac{\text{現 在 給 水 人 口}}{\text{損 益 勘 定 所 属 職 員 数}}$
職 員 1 人 当 り 給 水 量 (m ³)		223,486	220,886	2,600	392,942	460,596	$\frac{\text{年 間 総 有 収 水 量}}{\text{損 益 勘 定 所 属 職 員 数}}$
給 水 量 1 万 m ³ 当 り 職 員 数 (人)		16	17	-1	9	8	$\frac{\text{損 益 勘 定 所 属 職 員 数}}{\text{年 間 総 有 収 水 量} \div 365} \times 1 \text{万 m}^3$
企 業 債 元 金 償 還 金 に 対 す る 減 価 償 却 費 の 割 合 (%)		110.4	124.9	-14.5	70.4	76.3	$\frac{\text{建 設 改 良 の た め の 企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当 年 度 減 価 償 却 費} - \text{長 期 前 受 金 戻 入}} \times 100$
料 金 収 入 に 対 す る 比 率	企 業 債 元 金 償 還 金 (%)	24.6	26.2	-1.6	19.8	22.3	$\frac{\text{建 設 改 良 の た め の 企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{料 金 収 入}} \times 100$
	企 業 債 利 息 (%)	5.5	5.9	-0.4	5.0	5.8	$\frac{\text{建 設 改 良 の た め の 企 業 債 利 息}}{\text{料 金 収 入}} \times 100$
	企 業 債 元 利 償 還 金 (%)	30.1	32.1	-2.0	24.7	28.1	$\frac{\text{建 設 改 良 の た め の 企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{料 金 収 入}} \times 100$
	職 員 給 与 費 (%)	14.1	14.2	-0.1	11.9	9.7	$\frac{\text{損 益 勘 定 所 属 職 員 給 与 費}}{\text{料 金 収 入}} \times 100$

別表 10

費用構成節別比較表

区 分 科 目	令和元年度	平成30年度	対 前 年 度	
	金 額	金 額	増 減 額	増 減 率
営 業 費 用	1,195,528,621	1,217,496,108	-21,967,487	-1.8
給 料	112,944,636	115,191,900	-2,247,264	-2.0
手 当 等	47,642,296	50,224,738	-2,582,442	-5.1
賞与引当金繰入額	17,309,000	18,096,000	-787,000	-4.3
法 定 福 利 費	34,951,376	35,207,794	-256,418	-0.7
法 定 福 利 費 引 当 金 繰 入 額	3,861,000	4,449,000	-588,000	-13.2
賃 金	0	0	0	-
報 酬	3,336,986	3,369,167	-32,181	-1.0
退職手当組合負担金	30,932,215	28,775,796	2,156,419	7.5
厚 生 福 利 費	301,000	209,500	91,500	43.7
報 償 費	71,904	53,038	18,866	35.6
旅 費	335,079	244,388	90,691	37.1
被 服 費	494,100	466,245	27,855	6.0
備 消 耗 品 費	3,899,452	3,965,375	-65,923	-1.7
燃 料 費	1,050,691	1,046,081	4,610	0.4
光 熱 水 費	2,479,690	2,468,196	11,494	0.5
印 刷 製 本 費	919,940	839,900	80,040	9.5
通 信 運 搬 費	9,169,765	9,193,929	-24,164	-0.3
委 託 料	220,777,674	225,689,898	-4,912,224	-2.2
手 数 料	15,631,381	15,338,749	292,632	1.9
賃 借 料	13,889,691	13,303,251	586,440	4.4
修 繕 費	13,313,613	11,615,300	1,698,313	14.6
使 用 料	1,295,812	1,235,186	60,626	4.9
研 修 費	285,811	280,756	5,055	1.8
補 償 費	0	0	0	-
負 担 金	21,538,511	18,425,077	3,113,434	16.9
食 糧 費	0	0	0	-
保 險 料	849,035	817,615	31,420	3.8
貸倒引当金繰入額	1,200,000	605,000	595,000	98.3
交 際 費	0	0	0	-
納 交 付 金	523,400	534,600	-11,200	-2.1
庁 舎 補 修 費	1,605,000	1,395,636	209,364	15.0
路 面 復 旧 費	0	0	0	-

水 道 事 業

(単位：円、%)

区 分 科 目	令和元年度	平成30年度	対 前 年 度	
	金 額	金 額	増 減 額	増 減 率
動 力 費	6,988,281	7,185,135	-196,854	-2.7
薬 品 費	57,200	54,000	3,200	5.9
材 料 費	3,190,026	998,910	2,191,116	219.4
諸 謝 金	120,000	120,000	0	0.0
量 水 器 費	1,808,098	1,708,436	99,662	5.8
消 火 栓 費	0	0	0	-
受 水 費	200,239,200	200,088,378	150,822	0.1
工 事 費	44,461,163	70,898,160	-26,436,997	-37.3
有 形 固 定 資 産 減 価 償 却 費	371,380,849	366,567,833	4,813,016	1.3
無 形 固 定 資 産 減 価 償 却 費	6,013,714	6,013,714	0	0.0
固 定 資 産 除 却 費	575,932	683,927	-107,995	-15.8
棚 卸 資 産 減 耗 費	0	0	0	-
材 料 売 却 原 価	0	0	0	-
公 課 費	85,100	57,500	27,600	48.0
災 害 復 旧 事 業 費	0	78,000	-78,000	皆減
営 業 外 費 用	76,612,100	88,180,407	-11,568,307	-13.1
企 業 債 利 息	75,300,281	82,503,033	-7,202,752	-8.7
借 入 金 利 息	0	0	0	-
不 用 品 売 却 原 価	481,250	1,573,058	-1,091,808	-69.4
備 耗 品 費 (受 託 工 事 費)	22,230	27,770	-5,540	-19.9
燃 料 費 (受 託 工 事 費)	58,082	38,713	19,369	50.0
印 刷 製 本 費 (受 託 工 事 費)	0	0	0	-
材 料 費 (受 託 工 事 費)	0	0	0	-
工 事 費 (受 託 工 事 費)	690,189	3,624,800	-2,934,611	-81.0
雑 支 出	60,068	413,033	-352,965	-85.5
特 別 損 失	21,831,427	56,116,622	-34,285,195	-61.1
過 年 度 損 益 修 正 損	97,563	192,516	-94,953	-49.3
臨 時 損 失	21,733,864	55,924,106	-34,190,242	-61.1
予 備 費	0	0	0	-
合 計	1,293,972,148	1,361,793,137	-67,820,989	-5.0

別表 11

損 益 計 算 書 比 較 表

区 分 科 目	借		方		対 前 年 度 比 較	
	令和元年度		平成30年度		増 減 額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
営業費用	1,195,528,621	92.4	1,217,496,108	89.4	-21,967,487	-1.8
原水及び浄水費	360,249,235	27.8	369,309,672	27.1	-9,060,437	-2.5
配水及び給水費	126,196,695	9.8	127,105,102	9.3	-908,407	-0.7
漏水対策費	48,417,215	3.7	64,059,684	4.7	-15,642,469	-24.4
給水工事費	26,903,132	2.1	27,562,884	2.0	-659,752	-2.4
業務費	98,064,460	7.6	97,834,369	7.2	230,091	0.2
総係費	157,727,389	12.2	158,280,923	11.6	-553,534	-0.3
減価償却費	377,394,563	29.2	372,581,547	27.4	4,813,016	1.3
資産減耗費	575,932	0.0	683,927	0.1	-107,995	-15.8
災害復旧事業費	0	-	78,000	0.0	-78,000	皆減
営業外費用	76,612,100	5.9	88,180,407	6.5	-11,568,307	-13.1
支払利息	75,300,281	5.8	82,503,033	6.1	-7,202,752	-8.7
受託工事費	770,501	0.1	3,691,283	0.3	-2,920,782	-79.1
国庫補助返還金	0	-	0	-	0	-
雑支出	541,318	0.0	1,986,091	0.1	-1,444,773	-72.7
特別損失	21,831,427	1.7	56,116,622	4.1	-34,285,195	-61.1
過年度損益修正損	97,563	0.0	192,516	0.0	-94,953	-49.3
臨時損失	21,733,864	1.7	55,924,106	4.1	-34,190,242	-61.1
小 計	1,293,972,148	100.0	1,361,793,137	100.0	-67,820,989	-5.0
当年度純利益	254,422,852	-	226,497,877	-	27,924,975	12.3
合 計	1,548,395,000	-	1,588,291,014	-	-39,896,014	-2.5

水 道 事 業

(単位 : 円、%)

貸		方				
区 分 科 目	令和元年度		平成30年度		対前年度比較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率
営業収益	1,459,229,144	94.2	1,490,532,483	93.8	-31,303,339	-2.1
給水収益	1,367,618,832	88.3	1,397,141,425	88.0	-29,522,593	-2.1
水道加入金	28,965,000	1.9	34,715,000	2.2	-5,750,000	-16.6
給水工事収益	252,972	0.0	743,547	0.0	-490,575	-66.0
その他営業収益	62,392,340	4.0	57,932,511	3.6	4,459,829	7.7
営業外収益	88,152,762	5.7	97,240,164	6.1	-9,087,402	-9.3
受取利息	728,700	0.0	674,471	0.0	54,229	8.0
他会計補助金	7,835,000	0.5	1,568,000	0.1	6,267,000	399.7
雑収益	4,121,576	0.3	9,288,173	0.6	-5,166,597	-55.6
受託工事収益	566,591	0.0	3,987,275	0.3	-3,420,684	-85.8
長期前受金戻入	72,172,195	4.7	79,258,319	5.0	-7,086,124	-8.9
引当金戻入益	2,728,700	0.2	2,463,926	0.2	264,774	10.7
特別利益	1,013,094	0.1	518,367	0.0	494,727	95.4
過年度損益修正益	351,464	0.0	518,367	0.0	-166,903	-32.2
固定資産売却益	661,630	0.0	0	-	661,630	皆増
小 計	1,548,395,000	100.0	1,588,291,014	100.0	-39,896,014	-2.5
合 計	1,548,395,000	-	1,588,291,014	-	-39,896,014	-2.5

別表 12

貸借対照表比較表

区 分 科 目	借		方		対前年度比較	
	令和元年度		平成30年度		増減額	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
固定資産	10,629,294,587	84.8	10,375,012,904	85.3	254,281,683	2.5
有形固定資産	10,599,138,875	84.5	10,338,843,478	85.0	260,295,397	2.5
無形固定資産	30,155,712	0.2	36,169,426	0.3	-6,013,714	-16.6
投資	0	-	0	-	0	-
流動資産	1,908,898,520	15.2	1,794,497,924	14.7	114,400,596	6.4
現金及び預金	1,605,094,170	12.8	1,638,174,412	13.5	-33,080,242	-2.0
未収金	275,574,206	2.2	127,966,812	1.1	147,607,394	115.3
貸倒引当金	-321,058	0.0	-250,464	0.0	-70,594	28.2
貯蔵品	28,002,240	0.2	28,058,741	0.2	-56,501	-0.2
その他流動資産	548,962	0.0	548,423	0.0	539	0.1
資産合計	12,538,193,107	100.0	12,169,510,828	100.0	368,682,279	3.0

水 道 事 業

(単位 : 円、%)

貸		方				
区 分 科 目	令和元年度		平成30年度		対前年度比較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減 額	増減率
固 定 負 債	4,074,047,420	32.5	4,096,198,313	33.7	-22,150,893	-0.5
企業債	4,074,047,420	32.5	4,096,198,313	33.7	-22,150,893	-0.5
流 動 負 債	542,503,344	4.3	675,953,083	5.6	-133,449,739	-19.7
企業債	318,250,893	2.5	340,032,008	2.8	-21,781,115	-6.4
未払金	89,197,165	0.7	200,066,102	1.6	-110,868,937	-55.4
前受金	1,336,970	0.0	1,670,787	0.0	-333,817	-20.0
引当金	21,170,000	0.2	22,545,000	0.2	-1,375,000	-6.1
その他流動負債	112,548,316	0.9	111,639,186	0.9	909,130	0.8
繰 延 収 益	2,708,219,838	21.6	2,440,411,779	20.1	267,808,059	11.0
長期前受金	3,012,072,935	24.0	2,679,570,091	22.0	332,502,844	12.4
収益化累計額	-303,853,097	-2.4	-239,158,312	-2.0	-64,694,785	27.1
(負 債 合 計)	7,324,770,602	58.4	7,212,563,175	59.3	112,207,427	1.6
資 本 金	3,425,205,321	27.3	3,283,158,314	27.0	142,047,007	4.3
剰 余 金	1,788,217,184	14.3	1,673,789,339	13.8	114,427,845	6.8
資本剰余金	24,392,237	0.2	22,340,237	0.2	2,052,000	9.2
利益剰余金	1,763,824,947	14.1	1,651,449,102	13.6	112,375,845	6.8
(資 本 合 計)	5,213,422,505	41.6	4,956,947,653	40.7	256,474,852	5.2
負 債 資 本 合 計	12,538,193,107	100.0	12,169,510,828	100.0	368,682,279	3.0

別表 13

キャッシュ・フロー計算書比較表

区 分	令和元年度	平成30年度
1 業務活動によるキャッシュ・フロー		
当年度純利益	254,422,852	226,497,877
減価償却費	377,394,563	372,581,547
固定資産除却費	575,932	683,927
特別損失（臨時損失）	21,733,864	55,924,106
貸倒引当金の増減額（△は減少）	70,594	140,096
賞与・法定福利費引当金の増減額（△は減少）	△ 1,375,000	1,150,000
長期前受金戻入額	△ 72,172,195	△ 79,258,319
受取利息及び受取配当金	△ 728,700	△ 674,471
支払利息	75,300,281	82,503,033
有形固定資産売却損益（△は益）	△ 661,630	0
未収金の増減額（△は増加）	△ 147,607,394	20,127,559
未払金の増減額（△は減少）	△ 110,868,937	145,264,437
たな卸資産の増減額（△は増加）	56,501	1,293,012
前受金の増減額（△は減少）	△ 333,817	39,876
その他流動資産の増減額（△は増加）	△ 539	△ 1,698
その他流動負債の増減額（△は減少）	909,130	△ 4,617,721
小 計	396,715,505	821,653,261
利息及び配当金の受取額	728,700	674,471
利息の支払額（減額）	△ 75,300,281	△ 82,503,033
業務活動によるキャッシュ・フロー	322,143,924	739,824,699
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 615,328,845	△ 428,427,867
有形固定資産の売却による収入	662,700	0
国庫補助金等による収入	214,174,103	103,874,683
一般会計からの繰入金による収入	82,614,884	38,950,299
開発負担金による収入	6,585,000	1,416,000
長期貸付金回収による収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 311,292,158	△ 284,186,885
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	296,100,000	145,000,000
建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 337,042,429	△ 366,398,345
その他の企業債の償還による支出	△ 2,989,579	△ 2,953,355
他会計からの出資による収入	0	4,754,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 43,932,008	△ 219,597,700
資金増加額（1+2+3）	△ 33,080,242	236,040,114
資金期首残高	1,638,174,412	1,402,134,298
資金期末残高	1,605,094,170	1,638,174,412

水 道 事 業

(単位：円)

対前年度比較	説 明
	通常の業務活動の実施による資金の増減を表す
27,924,975	
4,813,016	現金支出を伴わない費用で損益計算書から費用計上額を記入
△ 107,995	現金支出を伴わない費用で損益計算書から費用計上額を記入
△ 34,190,242	現金支出を伴わない費用で損益計算書から費用計上額を記入
△ 69,502	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
△ 2,525,000	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
7,086,124	現金を伴わない収入で損益計算書の金額を（△）記入
△ 54,229	
△ 7,202,752	営業外費用で支払利息の金額（＋）を記入
△ 661,630	
△ 167,734,953	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（△）、減少の場合は（＋）を記入）
△ 256,133,374	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
△ 1,236,511	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（△）、減少の場合は（＋）を記入）
△ 373,693	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
1,159	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（△）、減少の場合は（＋）を記入）
5,526,851	貸借対照表上での前年度との比較増減額を記入（増加の場合は（＋）、減少の場合は（△）を記入）
△ 424,937,756	
54,229	
7,202,752	営業外費用で支払利息の金額を控除（△）記入
△ 417,680,775	
	将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動による資金の増減を表す
△ 186,900,978	資産取得金額の金額（△）を記入
662,700	資産売却金額を記入
110,299,420	国庫補助金等の金額を記入
43,664,585	一般会計からの繰入金額を記入
5,169,000	開発負担金による収入金額を記入
0	長期貸付金回収による収入金額を記入
△ 27,105,273	
	資金調達による資金の増減を表す
151,100,000	資本的収入の企業債借入額を記入
29,355,916	建設改良等の財源に充てるための企業債元金償還額（△）を記入
△ 36,224	その他の企業債元金償還額（△）を記入
△ 4,754,000	資本的収入の他会計出資金・補助金を記入
175,665,692	
△ 269,120,356	
236,040,114	
△ 33,080,242	

※間接法による

別表 14

經 營 財 務 分 析 表

	分析項目	單位	比 率			算 式
			令和元年度	平成30年度	平成30年度 年鑑指標	
構 成 比 率	固定資産構成比率	%	84.78	85.25	86.85	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$
	流動資産構成比率	%	15.22	14.75	13.15	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}} \times 100$
	固定負債構成比率	%	32.49	33.66	25.52	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}} \times 100$
	流動負債構成比率	%	4.33	5.55	3.76	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資産}} \times 100$
	自己資本構成比率	%	63.18	60.79	70.72	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資産}} \times 100$
財 務 比 率	流動資産対固定資産比率	%	17.96	17.30	15.14	$\frac{\text{流動資産}}{\text{固定資産} + \text{繰延資産}} \times 100$
	固定比率	%	134.18	140.25	122.81	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$
	固定資産対長期資本比率	%	88.61	90.27	90.24	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$
	流動比率	%	351.87	265.48	349.83	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
	当座比率	%	346.61	261.24	331.96	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$
	現金預金比率	%	295.87	242.35	299.47	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
	負債比率	%	92.47	97.50	74.59	$\frac{\text{負債}}{\text{自己資本}} \times 100$
	固定負債比率	%	51.43	55.37	36.10	$\frac{\text{固定負債}}{\text{自己資本}} \times 100$
	流動負債比率	%	6.85	9.14	5.32	$\frac{\text{流動負債}}{\text{自己資本}} \times 100$
回 轉 率	総資本回転率	回	0.12	0.12	0.09	$\frac{\text{営業収益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
	自己資本回転率	回	0.19	0.21	0.12	$\frac{\text{営業収益}}{\text{年平均自己資本}} \times 100$
	固定資産回転率	回	0.14	0.15	0.10	$\frac{\text{営業収益}}{\text{平均固定資産} - \text{平均建設仮勘定}} \times 100$
	流動資産回転率	回	0.79	0.88	0.66	$\frac{\text{営業収益}}{\text{平均流動資産}} \times 100$
	未収金回転率	回	46.74	51.98	6.87	$\frac{\text{営業収益}}{\text{平均営業未収金}} \times 100$
	貯蔵品回転率	回	0.19	0.23	-	$\frac{\text{期首貯蔵品} + \text{当年度増加額} - \text{期末貯蔵品}}{\text{平均貯蔵品}} \times 100$

水 道 事 業

備	考
	<p>総資産に対する固定資産・流動資産の占める割合であり、固定資産構成比率が大であれば、資本が固定化の傾向にあり、流動資産構成比率が大であれば流動性は良好である。なお、両者の比率の合計は100となる。</p>
	<p>総資本とこれを構成する固定負債・流動負債・自己資本の関係を示すもので、自己資本構成比率が大であるほど経営の安全性は大きいものといえる。</p>
	<p>固定資産と流動資産の関係を示すもので、数値が小さいほど資本が固定化している。</p>
	<p>固定資産が自己資本によってまかなわれるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましいとされている。</p>
	<p>固定資産の調達が自己資本と固定負債の範囲内で行われるべきであるとの立場から、100%以下であることが望ましく、超過した場合は過大投資が行われたものといえる。</p>
	<p>1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性の確保には、流動資産が流動負債の2倍以上であることが望まれるので、理想比率は200%以上である。</p>
	<p>流動資産のうち現金預金及び容易に現金化しうる未収金などの当座資産と流動負債とを対比させたもので100%以上が理想比率とされている。</p>
	<p>流動負債に対する現金預金の割合を示す比率で、20%以上が理想値とされている。</p>
	<p>負債を自己資本より超過させないことが健全経営の第一義であるので、100%以下を理想とする。</p>
	<p>負債比率が100%を超える場合であっても負債の良否を判断する必要があり、そのため流動負債比率は75%以下を標準比率としている。</p>
	<p>企業に投下運用されている資本の効率を測定するものである。</p>
	<p>自己資本の働きを総資本から切り離して観察したものである。</p>
	<p>営業収益と固定資産（設備資産）に投下された資本との関係で、設備利用の適否を見るためのものである。</p>
	<p>現金預金回転率・未収金回転率・貯蔵品回転率等を包括するものであり、これらの比率が高くなれば、それに応じて高くなるものである。</p>
	<p>営業収益と営業未収金との関係で、未収金として固定される金額の適否を見るためのもので、比率が高ければそれだけ未収金の回転速度が速いことを意味する。</p>
	<p>貯蔵品を費消しこれを補充する速度を明らかにするもので、この比率が高いほど貯蔵品に対する投下資本が少なくすむので、貯蔵品管理の巧拙を反映する。</p>

	分析項目	単位	比率			算式
			令和元年度	平成30年度	平成30年度 年鑑指標	
収 益 率	総収支比率	%	119.66	116.63	110.99	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
	経常収支比率	%	121.64	121.61	111.44	$\frac{\text{経常収益 (営業収益+営業外収益)}}{\text{経常費用 (営業費用+営業外費用)}} \times 100$
	営業収支比率	%	124.85	125.20	100.69	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$
	総資本利益率	%	2.23	2.34	1.06	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
	営業収益利益率	%	18.87	18.94	12.13	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{営業収益}} \times 100$
の	減価償却率	%	3.70	3.66	4.16	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産+当年度減価償却費}} \times 100$
	利子負担率	%	1.71	1.86	1.85	$\frac{\text{支払利息}}{\text{企業債等+一時借入金+リース債務}} \times 100$
	企業債償還元金対償還財源比率	%	58.06	63.68	53.31	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{減価償却費}} \times 100$ + 当年度経常利益 - 長期前受金戻入
	不良債務比率	%	-	-	-	$\frac{\text{不良債務額}}{\text{営業収益}} \times 100$
	累積欠損金比率	%	-	-	1.03	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{営業収益}} \times 100$
	職員1人当り営業収益	千円	52,106	51,372	82,871	$\frac{\text{営業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}} \div 1000$
	職員1人当り営業費用	千円	41,737	41,032	82,304	$\frac{\text{営業費用}}{\text{損益勘定所属職員数}} \div 1000$
他	職員1人当り有形固定資産	千円	341,908	323,089	662,053	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{職員数}} \div 1000$

(注1)年鑑指標＝「地方公営企業年鑑」水道・給水人口5万人以上10万人未満の平成30年度全国平均値である。

(注2)各算式に用いた用語は、次のとおりである。

総資産＝固定資産＋流動資産＋繰延資産 総資本＝資本＋負債

自己資本＝資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益 年平均＝（期首＋期末）×1/2

支払利息＝支払利息＋企業債手数料及び取扱諸費

企業債等＝建設改良の財源に充てるための企業債・長期借入金＋その他の企業債・長期借入金

営業収益＝営業収益－受託工事収益 営業費用＝営業費用－受託工事費

貯蔵品当年度増加額＝当年度購入額＋当年度発生額

総資本利益率＝算式の分子、当年度純利益を当年度経常利益としている。

総資本利益率＝算式（当年度純利益/総資本）を（当年度経常利益/年平均総資本）と読み替えている。

不良債務額＝（流動負債－建設改良費等の財源に充てた企業債・長期借入金）－（流動資産－翌年度繰越財源）

水 道 事 業

備	考
	総収益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総体的な関連を示すものである。
	経常収益（営業収益＋営業外収益）と、経常費用（営業費用＋営業外費用）を対比したものであり、経常的な収益と費用の関連を示すものである。
	業務活動によってもたらされた営業収益と、それに要した営業費用とを対比して業務活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断されるものである。
	投下された資本の総資本と、それによってもたらされた利益とを比較したものである。
	営業収益に占める経常利益の割合を示すものである。
	減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって、いかなる減価償却政策をとっているかを明らかにするもので、固定資産に投下された資本の回収状況を見るためのものである。
	借入金に対し、それらの支払利息等の負担比率を示すもので、この比率が低いほど低廉な資金を使用していることになる。
	企業債元金償還金と、その主要償還財源である減価償却費及び当年度経常利益の合計額から長期前受金戻入を控除した額を比較したもので、この比率が低いほど償還能力は高い。
	企業経営健全性確保のためには、支払不能の債務（不良債務）のないことが不可欠でこの比率が高いことはそれだけ企業の経営が悪化していることを示している。
	累積された赤字額である累積欠損金と1年間の営業収益とを比較したもので、この比率が高いということは不良債務比率と合わせ、企業経営が悪化しているということである。